



医療センターだより

よしぶえ

NEWS LETTER

No.13



2016年3月発行

5つの基本方針

1. 地域の視点に立った信頼される医療を目指します。
2. 安全性が保障された質の高い医療を追求します。
3. 地域の医療機関や福祉施設との連携を進めます。
4. 活気に溢れ、誇りを生み出す組織風土を醸成します。
5. 公営企業として、経営の健全化に努めます。

乳腺疾患についてQ&A



日本医療機能評価機構

[掲載項目]

- ①表紙 《当院庭園に咲くクリスマスローズ》
- ②乳腺疾患についてQ&A
- ③当院からのお知らせ
- ④子どもの療養環境向上
アイデア賞受賞について
- ⑤CT撮影装置の導入について
- ⑥地域医療課通信

こんにちは あかちゃん

2月生まれ

3E病棟

がんサロン

外科

公開講座

当院の外科医の門谷 弥生先生に、乳腺疾患について聞いてみました。どんなことに注意すればいいのか確認しておきましょう。

『乳腺疾患について』 Q&A

外科 門 谷 弥 生



Q1. 乳房の病気にはどんなものがありますか？

A1. 悪性腫瘍《乳癌（悪性腫瘍の中で最多）、悪性葉状腫瘍、悪性リンパ腫など》、良性腫瘍《線維腺腫（良性腫瘍の中で最多）、乳頭腫、葉状腫瘍など》、乳腺症、乳腺炎《授乳期の乳腺炎、乳輪下膿瘍など》があります。治療の対象となるのは悪性腫瘍、乳腺炎、一部の良性腫瘍です（良性腫瘍のほとんどは悪性化しないため治療不要）。乳腺症は乳癌との鑑別に用いる病名で、治療の対象ではありません。

Q2. 乳癌の症状にはどんなものがありますか？

A2. 乳癌で一番多い症状はしこりです。そのほか、乳房の変形（ひきつれやくぼみ）、乳頭からの血の混じった分泌物などがあります。まれに、かゆくもない乳頭・乳輪のびらん、乳房皮膚の発赤やむくみなどがあります。まれに痛みを伴うこともあります。乳癌に特徴的な症状ではありません。乳癌検診も大切ですが、月に1回じっくり自分で乳房を触ってみることが早期発見のポイントです。

Q3. 乳癌検診はどうしたら受けることができますか？

A3. 乳癌リスクは30歳代から急に上昇するといわれています。40歳以上の女性は、2年に1回のマンモグラフィー併用検診（マンモグラフィー＋視触診）受けることが推奨されています。マンモグラフィーは乳房を圧迫してレントゲンをとる検査で市民検診として実施されています。

30歳代では残念ながら市民検診としての乳癌検診は実施されておらず、検診施設（自費）で受けていただく必要があります。当院では健診センターで随時乳癌検診を受け付けており、マンモグラフィー以外にも乳腺超音波検査も行っております。超音波検査は体表にゼリーを塗りプローブというものを当てて内部の構造を観察する検査で、これも検診に有用です。20歳代以下では乳癌のリスクが低いため、検診は推奨されていません。どの年齢においても乳房の症状で気になることがあれば、検診ではなく診察（保険診療）を受けるようにしてください。

Q4. 検診を受けたら乳腺症って言われました。これはどういうことですか？

A4. 乳腺症は腫瘍（＝できもの）ではありません。乳腺が長年にわたってホルモンの影響下に増殖と萎縮（いしゅく）を繰り返している間に乳腺が変化をおこして大小さまざまな硬結を触れるようになったものです。生理的変化の一環とみなすことができ、本来は病気としては扱われません。乳腺がゴツゴツ固く触れる人は乳腺症の可能性が高く、検診では異常とされることがあります。乳腺症と診断されたら触診だけでは診断が難しく癌を見逃すことがあるので、マンモグラフィーなどの画像を併用した定期検診を受けることをおすすめしています。

市民公開講座を開催しました。

第2回認知症市民公開講座を開催しました。

平成28年1月24日に当院のよしぶえホールにて、第2回目の認知症市民公開講座を開催しました。

神経内科部長の松尾先生より『認知症ってどんなもの?』というテーマで、わかりやすくご講演いただきました。また、放射線科部長の高田先生より『認知症の画像ってどのように診断するの?』、鍵野放射線科技師より『認知症の画像検査ってどんなもの?』、栄養管理科の森下管理栄養士より『認知症を予防する食生活 ～魚の脂について～』、リハビリテーション科の中川作業療法士より『認知症の方への接し方、介護保険や社会資源について』というテーマでそれぞれご講演いただきました。

高齢化に伴い、認知症は年々増加傾向にあります。画像診断の発達により早期診断が可能となりました。地域住民の皆様、認知症の正しい理解と検査方法を知ってもらうことで、早期受診・早期治療につながることを目的とし、継続して第2回目の講座を開催しました。今回は90人の方々にお集まりいただき、好評で終わることができました。

今年度の市民公開講座は、計6回開催させていただきました。当院では、来年度も引き続き市民公開講座の開催に向けた企画を行ってまいりますので、ご協力とご参加をお願いします。

今後も、地域の皆様の健康増進にお役に立てるよう、各チーム一同頑張っておりますので、よろしくお願いいたします。

NEWS



こんにちは



赤ちゃん



当院で生まれた赤ちゃんを紹介します！



ママからひとこと

姉妹仲良く、
大きく育てね ♡

じゆな
樹奈ちゃん (2016年2月19日生まれ・3066g)



ママからひとこと

いろいろな事
に向かって翔け! ♡

しょうま
翔万ちゃん (2016年2月21日生まれ・3412g)



『21世紀 あいちの子ども健康フォーラム』におきまして、子どもの療養環境向上アイデア賞を受賞することができました。受賞までの当院の取り組み等について紹介させていただきます。

Q1.子どもの療養環境向上アイデア賞とは何ですか？

A1. 「マニュライフ生命・子ども療養環境支援プロジェクト2015」の取り組みで、病気治療のためやむ得なく入院している子どもたちが生活する病院でもアメニティを改善し、子どもも家族も検査や手術に不安や恐怖心を感じない医療が受けられ、また入院中も適切な発達を保障できるような療養環境向上のためのアイデアを募集されたものです。

Q2. 受賞に至るまでの取り組みと、受賞をしての感想を教えてください。

A2. 長期入院や治療やケアでストレスを感じている患児におもちゃや絵本の貸し出し、室内保育を行ってきました。おもちゃや絵本を持って行ったとき、患児や保護者の方の表情は和らぎ「おもちゃがあって助かりました。」「久しぶりに子どもとゆっくり遊べました。」と入院によるストレス発散はもとより、母子の温かいふれあいの時間としても貢献してきました。一方で、貸し出しできるおもちゃは少なく、ストレスの高い患児優先でしか利用してもらえないのが現状でした。そんな中、病棟での取り組みや理想とする関わりが採用され、治療の励みや退屈な入院生活の気分転換となるおもちゃを充実することができました。ストレスの大小に関係なくおもちゃを利用してもらう事ができるようになったことは、なにより嬉しいことです。今後も“治療を頑張る”“入院生活を楽しむ”アメニティとして提供し、患児の1日も早い退院を応援していきたいと思えます。

Q3. どのような玩具をそろえ、患児の入院生活のストレス軽減につなげたいですか？

A3. 消毒できるもの、長時間遊べるボードゲームや知育パズル、ベッド上で手軽に遊べるものを基準に選定しました。年齢ごとに数点ずつそろえ、乳児から児童までそれぞれの年齢や発達にあわせて貸し出せる



ようになっていきます。一人一点、希望により毎日おもちゃを貸し出し、保護者や看護師・保育士と一緒に遊んでもらう。「これ（治療）が終わったらおもちゃで遊ぶ。」と頑張る力を引き出したり、「明日はどんなおもちゃであそぼうかな。」とワクワクしながら、入院生活を楽しんでもらえるように利用していきたいと思えます。患児との関わりやおもちゃを通して、入院中も患児の笑顔がたくさん見られるように願っています。

世界最高水準の全身用X線CT撮影装置 『Aquilion ONE』を導入しました。

近江八幡市立総合医療センターでは、平成28年1月に、320列のAD（エリアディテクタ）CT（※1）装置『Aquilion ONE』を導入しました。

320列とは1度に撮影出来る断面数の事で、列数が多いほど1度に撮影できる範囲が広がります。現在、臨床で使用されている装置では、この320列が最高で、世界No1の列数CT装置といえます。1回転の撮影で16cmの範囲の撮影ができます。

例えば、脳や心臓などは、寝台を移動させることなく撮影ができ、動きによる影響が非常に少ない画像を得ることが可能になりました。

また、脳血管の検査では、造影剤（※2）の注入前・後を全く同じ状態で撮影し処理する事で、造影された脳の血管だけを描出する事ができます。さらに、造影しながら脳全体を連続して撮影することで、脳の血流動態を観察することもできます。

1回転の最速は0.35秒という速さです。

16cmの範囲を0.35秒で撮影する事が可能となり、動きがちな乳幼児の撮影時に眠剤を使用する事なく安全に検査ができます。また、重篤な患者さんを瞬時に撮影し早期に治療する事で、治療効果そのものを向上させる事が可能となります。

今回導入しました最新のADCT装置を最大限活用し、地域住民の皆様の高度医療に役立てて参ります。



（※1）面検出器コンピュータ断層撮影

（※2）体内の血管、臓器、病気の部分の様子を分かりやすくするために使用する医薬品

地域医療課通信

～がん患者サロン「よしぶえ」のご紹介～

がん患者サロン「よしぶえ」は、がん患者さんとそのご家族さんの交流の場です。

がんと向き合っている者同士だからこそ分かち合えることがあります。仲間と一緒に話して、聴き合っ
て、泣いて、笑って、思いを分かち合いませんか。心を少し軽くしてみませんか。どうぞお気軽にご参加
ください。

- と き：毎月第4月曜日
- ところ：近江八幡市立総合医療センター1階 4ブロック横 5-9指導室
- じかん：13時から15時

滋賀県がん患者団体連絡協議会が主催で行っており、お世話役の方が毎回数名お越しいただいております。

●がん患者サロンに参加して・・・

先日、がん患者サロンに参加させていただきました。その日は多くの参加者の方がおられ、前半は初参加の方の体験談を中心にお話をされていました。がんを患って辛い思いをしたが、病気をきっかけに好きなことをして生きようなど、明るく前向きになったと話をされ、皆さんで笑いながら話が進んでいました。後半は、抗がん剤治療の副作用について、テーマを決めてお話をされていました。

お部屋はアットホームな雰囲気、絵画やテーブルクロスなどもあり、話しやすいムードに工夫されていました。がん患者さんだけでなく、ご家族さんも参加されていました。

主治医や看護師に聞けない悩みをざっくばらんに話し合ったり、がんを体験されたことのある方やそのご家族さんのお話は深みがあり、大変参考になりました。

一人で悩んでいても解決出来ないことや、ちょっと聞きたいけど誰に相談したらいいのかわからないなど、疑問や悩みを相談することで、心が穏やかになるような気がしました。



近江八幡市立総合医療センター

〒523-0082 滋賀県近江八幡市土田町 1379 番地

TEL 0748-33-3151 FAX 0748-33-4877

<http://kenkou1.com/>

***病院へのご意見・ご質問をお寄せください。**

発行：広報プロジェクトチーム

当センターで医療を受けられる方の権利

1. 人権が尊重され、良質で適切かつ安全な医療を、平等・公正に受けることができます。
2. 自分の受ける医療について説明を受け、検査や治療方法などを自分で選ぶことができます。
3. 診断や治療について、他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
4. 診療情報の提供、又は診療記録の開示を求めることができます。
5. 診療上の個人情報やプライバシーが守られる権利があります。